



題字・天野貞祐

第 106 号

令和 8 年 6 月 5 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 竹内文生

主な内容

神は細部に宿る—獨協演劇部 座談会記録／柳本先生の退職に寄せて— … 鍋屋剛志 ……	(1)
令和 8 年度 総会・講演会・親睦会 開催のご案内 ……	(4)
令和 8 年度通常総会議案書 ……	(5)
目白だより 2026 年度大学入試合格者数 …… 森分章太 ……	(7)
OB 講演会 報告 …… 鍋屋剛志 ……	(8)
OB 会活動報告 ……	(10)
クラス会だより ……	(12)
私の近況 卒業 10 年 ……	(18)
編集後記 …… 鍋屋剛志 ……	(20)



<https://www.dokkyo-mejiro.com>

<https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

神は細部に宿る

— 獨協演劇部 座談会記録／柳本先生の退職に寄せて —

参加者：柳本 博 先生

友部康志 氏 (平成 5 年卒)

大西孝明 氏 (平成 3 年卒) [獨協中学・高等学校 P T A 会長]

司会・報告：鍋屋剛志 (平成 8 年卒) [獨協同窓会 副幹事長]

鍋屋 まずは、柳本先生が演劇に興味を持ったきっかけからお願いします。そもそも柳本先生がなぜ演劇に興味を持たれたのか教えていただけますか。

柳本先生の言葉は、具体的な映像の描写から始まった。高校一年生の時に観た映画「カッコーの巣の上で」で、精神病院の中にいる主人公は、病院規則を理由にテレビをつけられない。それでも主人公は、真っ暗な画面に向かってワールドシリーズの実況を始める。すると、周囲の患者たちが次々とその“実況”に乗り、見えないはずの試合が、そこに立ち上がっていく、という印象的なシーンがある。

柳本 真っ暗なテレビに向かって実況を始めるんです。そうすると、他の患者たちがね、それに乗っかってくる。その場面にすごく感動して、演技とか演劇の力ってあるんだなって。

「見せられない」状況にも関わらず、それを「見



せてしまう」。これが、柳本先生を演劇の虜にさせた。以来、大学では文学を学びながら演劇に没頭し、役者・作家・演出まで一通りを経験したという。

柳本 中央大学では文学部で文学をやっているふりをして、ずっと演劇をやっている。演者、作家、演出、全部やりました。

しかし、夢だけで走り切れるほど世の中は単純

ではない。挫折も重ね、就職し、いったん演劇のない場所へと身を置く。ところが、獨協で教壇に立つことになってから、心の底に沈めていた火が

再び息を吹き返す。

柳本 もう演劇はやり切ったからやめようと思っていたんですけど、ムクムクと湧いてきちゃう。

第一章 文化演劇委員会から部へ

話題は演劇部の創設期へと遡る。大西氏は、獨協演劇の“最初の風景”を、飾らない言葉で呼び戻す。

大西 黎明期のいちばん最初の話ですよ。

鍋屋 大西さんが中1で、柳本先生が主管(担任)の時、すでに文化演劇委員会はあったのですか。

その間に、時系列が整理される。

大西 中一の学年で獨協祭で公演したのが始まりですね。次の年1986年に今の演劇部の前身の委員会になって各学年から精鋭?が集められ、見事文化祭

大賞を受賞できました。

柳本先生が顧問として関わり始め、気づけば「四十年」という時間に達していた。

大西 ちょうど40年。まさに40年間。

大西氏が触れたのは、当時の“人”の濃さである。舞台の中心に立つ者、裏方に回る者。色々な人間がいて、個性派のタレントが揃っていた。ただ、この頃初めて外の大会に出場したものの、獨協演劇は当時の高校演劇のお堅い審査員には全く認められなかったという。

第二章 黄金世代 笑いが確信に変わった瞬間

そして話題は、友部氏が部長を務めた世代へ移る。後に「黄金世代」と呼ばれることになる時期だが、本人はむしろ“整っていった感覚”を語る。

友部 僕らの世代にいろいろと固まったんですよ。先輩たちの失敗をもとに、美味しいところを全部重ねられたのが僕らの世代だった。

友部氏が強調したのは、突然の成功ではなく、波に乗った、という実感である。演劇の方向性も当時の高校演劇の所謂“主流”とは異なっていた。

友部 当時の高校演劇は、学生的な重たいテーマが主流だったけど、獨協は独自のジャンルとしてやっ

てきた。めっちゃアナーキーだったわけです。

獨協生の反応は、何よりの指標となった。

友部 獨協生がゲラゲラ笑ってるわけです。うちの仲間たちがあれだけ笑ってんだから、受けないわけねえじゃんって思うわけです。

その“笑い”が、外の世界へ伝播していく感覚があったという。この頃になると獨協の演劇が認められるようになり、地区大会、都大会、関東大会、そして全国大会という過程を経ながら、獨協の演劇がその“見られ方”を変えていった。

第三章 台本と稽古

座談会で繰り返し立ち上がったのは、獨協演劇の“創り方”である。友部氏が語った台本作りの場面は、痛快なほど率直だ。

友部 柳本先生が徹夜で一生懸命書いてきた台本を俺ら読み上げるわけです。つまらないですね、って平気で言うわけです。

それはまさに作品を良くするための共同作業であった。柳本先生も同じ線上で言葉を重ねる。

柳本 やっぱり最初読んだ時に受けないものはダメですね。

他校では、有名作家の戯曲を演ずることが多かったという。獨協では逆に、舞台上に立つ生徒達が、柳本先生が創った草稿を基に練り上げ、磨いていった。そこにあるのは、獨協らしい“リベラ

ル”さである。

友部 獨協ってリベラルじゃないですか。

細部の調整、タイミング、言葉の選び方。その積み重ねが“ドッカン”を生む。友部氏が語った



「ピシー（つまらない時のブーイングのような反応）」という反応の話は、当時の他校との演劇文化の違いを表していた。

友部 獨協の仲間たちが笑う。センスの高いあいつらが笑うわけだから、受けないわけねえじゃんって思うわけです。

第四章 時代が追いついた 獨協の名が“期待”になるまで

友部氏は、初代・二代目が“受け入れられなかった”時期を、こう捉える。

友部 時代がやっと追いついてきた、みたいな感じで。

最初は「新人だろ」という空気で見られる。しかしある瞬間から「獨協、面白いかもしれない」という感情が会場に生まれる。「獨協＝面白い演劇をする」となっていく過渡期を、当事者として目撃したという言葉は重い。

柳本先生も、漫才ブーム、小劇場ブーム等の波に乗って、舞台芸術が見直されてきた時代と語る。

一方で、全国大会は容易ではない。柳本先生は、友部氏世代以降「全国大会出場の手前まで行ったことは2回くらい」あるが、全国大会への出場はあの一度きりだと語った。だからこそ、あの一度が“奇跡”として記憶される。全国大会に出場できるのは、約1400校のうち11校のみ。

柳本 天文学的な巡り合わせですね。

第五章 海を越えて 言葉を超える舞台

座談会の終盤、演劇の“効能”は国内の大会を越えたところにも及ぶことが語られた。

柳本 2008年と2015年の2回、韓国にも行っています。

日本語の芝居を韓国で上演する。言葉の壁があ

るにもかかわらず、獨協の演劇が届く瞬間があったという。

柳本 言葉は通じないんですけど、一生懸命頑張っていると、韓国の女の子が楽屋まで乗り込んで来て『結婚してくれ』って言うんです。

最終章 退官に寄せて 授業と舞台、その共通点

鍋屋 最後に、獨協での教師生活42年間、退官にあたって、思い出に残っていること等を教えてください。

柳本先生は、最後まで柳本先生だった。

柳本 毎時間、毎時間の授業が楽しいのがいい。（こんな感想でいい？）

柳本 男子校に就職したのが悔やまれた。大学も文学部で女子学生が多かった。（獨協に勤めてから）3年後には獨協女子（獨女）にしたかった。

柳本 自分の結婚披露宴で、演劇部の生徒達がサプライズでお祝いの演出をしてくれたことが本当にうれしかった。

座談会は、最後まで“獨協らしい笑い”が絶えないまま終わった。42年間、教え子たちと舞台を作り、言葉を磨き、細部に拘ってきた柳本先生が教壇を離れる。

この座談会は、その退官を「惜しむ」ためだけの場ではない。獨協演劇部の創部から次の世代へ手渡されていく過程を、当事者の言葉で記録する場であった。

神は細部に宿る——その言葉の通り、柳本先生が残した細部までこだわり抜いた獨協演劇は、これからも後輩たちに受け継がれる。



令和8年度 総会・講演会・親睦会開催のご案内

日時：令和8年6月20日（土曜日）

場所：獨協中学高等学校 5F 小講堂

親睦会場は 椿山荘 ホテル棟 1階 ボールルーム

14:30	受付開始
15:00～15:50	【総会前特別講演会】
16:00～17:00	【総 会】
18:00	受付開始
18:30～20:30	【親睦会】 椿山荘 ～ホテル棟 1階 ボールルーム～

<会費> 会場受付にてお支払いください

昭和44年以前の卒業生 …………… 3,000円

昭和45年～令和3年の卒業生 …… 6,000円

令和4年～令和6年の卒業生 …… 3,000円

令和7年の卒業生 …………… 2,000円

令和8年の卒業生 …………… ご招待

同伴者 …………… 3,000円

《ご注意》

※令和7年及び令和8年の卒業生にはお酒の提供はいたしません。

※未成年の卒業生の飲酒が確認された場合、親睦会でのお酒の提供を中止します。

総会前特別講演会

【演題】：「災害医療の現場から」

【演者】：木原正義（昭和47年卒・前同窓会会長）



写真は訓練時の様子

<略歴>

1972（昭和47）年 獨協高等学校卒業

1982（昭和57）年 獨協医科大学卒業

1992（平成4）年 きはら整形外科開業
（東京都大田区）

PTA会長、同窓会会長、獨協学園理事を務め、現在は獨協学園評議員。

医師会では災害医療担当理事として、地域における災害訓練や東日本大震災、羽田空港航空機事故等を経験している。

令和8年度通常総会議案書

開催日：令和8年6月20日(土)

《 総会付議事項 》

第1号議案：令和7年度事業報告の件
第2号議案：令和7年度収支決算の件

第3号議案：令和8年度事業計画案の件
第4号議案：令和8年度収支予算案の件

第1号議案：令和7年度事業報告の件

【概況】

通常総会および総会前特別講演会を開催し、その後椿山荘に於いて親睦会を開催しました。

また、アルカディア市ヶ谷において年2回の幹事会を開催しました。

獨協祭では「文筆業に携わる獨協卒業生」をテーマに展示・紹介を行いました。昭和46年卒の児童文学者の斎藤洋氏におこしいたきました。

第12回OB講演会は、平成5年卒の俳優友部康志氏をお招きし、令和8年2月14日(土)に開催しました。

さらに、同窓会活動の認知向上を目的として、初の試みとなる若手交流会を実施しました。

会報(獨協通信)については、春号は全会員へ郵送し、秋号は会費納入者へのみ送付する運用としました。

例年同様、卒業生への記念品贈呈を行うとともに、図書館へ図書費として20万円を寄附しました。

財務基盤の強化を目的とした寄附金募集については、多くの賛同を得て、約280万円の寄附金を計上することができました。

また、卒業時に納付を依頼している新卒同窓会費(1万円/4年間)は、90万円となりました。

＜開催した活動は以下の通りです＞

4月12日	総務委員会(母校開催)
4月19日	常任幹事会(母校開催)
5月10日	幹事会(アルカディア市ヶ谷開催)
6月14日	総務委員会(母校開催)
6月21日	総会(母校開催)
7月26日	総務委員会(母校開催)
9月6日	総務委員会(母校開催)
10月11日	総務委員会(オンライン開催)
10月18日	常任幹事会(母校開催)
11月8日	幹事会(アルカディア市ヶ谷開催)
1月24日	総務委員会(母校開催)
3月28日	総務委員会(母校開催)
2月15日	総務委員会(母校開催)
3月22日	総務委員会(母校開催)

第2号議案：令和7年度収支決算の件

【収入】 **¥15,421,184**

① 一般会費	¥6,480,000
② 入会金	¥4,410,000
③ 新卒会費	¥900,000
④ 寄附金	¥2,878,719
⑤ 事業収入	¥352,000
⑥ 広告掲載	¥400,000

【支出】 **¥13,632,218**

① 事業費	¥10,395,282
(内 会報費)	¥2,277,770
(内 事業通信費)	¥2,968,126
② 事務費	¥3,236,936

【収支差額】 **¥1,788,966**

第3号議案：令和8年度事業計画案の件

【概況】

公式LINEアカウントをはじめとした情報発信の拡充を図り、会費納入の促進に努めてまいります。

また、PTAや後援会との連携を強化し、母校への支援を推進してまいります。

＜主な事業計画は以下の通りです＞

【総会后親睦会の開催】

6月の通常総会終了後、椿山荘にて親睦会を例年通り開催します。

【獨協祭への参加】

9月開催の獨協祭に展示参加します。

【クラス会・支部会等への支援】

クラス会等の開催に対しては、参加人数に応じた補助金支援を継続します。また、支部会等の設立および開催についても引き続き支援してまいります。

【寄附金】

寄附金を納入いただいた際には、金額に応じて感謝状の発行や御礼品の贈呈を行います。

【講演会の開催】

第13回OB講演会(中3年生および高1～2年生を対象)を開催します(令和9年2月13日予定)。

【OB会活動の広報支援】

獨協祭においてOB会活動の紹介を行うほか、会報(獨協通信)においてOB会紹介の掲載を継続します。

【会則の改定・規程類の整備】

現在の運営実態に即した内容とするため、会則の見直しおよび各種規程の整備について検討を進めてまいります。

【母校・在校生支援】

母校の教育活動や在校生の学修に資する支援を行います。

【コスト削減】

会報(獨協通信)の年2回の郵送は引き続き会費納入者に限定し、会費未納入者には春号のみの郵送とします。

第4号議案：令和8年度収支予算案の件

【概況】

収入面では入会金・会費(一般会費および新卒同窓会費)を基盤としつつ、寄附金や懇親会会費などの収入を見込んで編成しています。特に財務基盤の強化を目的とした寄附金については、引き続きご協力をお願いする次第です。

支出面では、総会および総会後の親睦会の開催や会報の発行に関わる費用、OB会(クラス会)活動の支援など、例年の事業を中心に計上をしています。あわせて、事業運営に必要な経費についても見込んでいます。

収支については黒字を確保する計画としており、引き続き安定した運営を維持しながら、同窓会活動の充実と発展に努めてまいります。

会員の皆さまにおかれましては、今後とも本会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年度 収支決算書 及び 2026年度予算案

(2025年4月1日～2026年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	2025 年度予算額	2025 年度決算額	予算進捗率	2026 年度予算額	摘 要
入 会 金	6,480,000	6,480,000	100.0%	6,480,000	3万円×216名(新入生)
一 般 会 費	5,000,000	4,410,000	88.2%	5,000,000	
新 卒 会 費	1,000,000	900,000	90.0%	1,000,000	
寄 付 金	2,150,000	2,878,719	133.9%	2,060,000	
(内訳) 財務拡充寄付	2,000,000	2,789,000	139.5%	2,000,000	
スマイルボックス	50,000	56,719	113.4%	50,000	
グッズ協賛寄附	100,000	33,000	33.0%	10,000	タイピン、カフス、ポロシャツ等
事 業 収 入	200,000	352,000	176.0%	300,000	
(内訳) 懇親会会費	200,000	342,000	171.0%	300,000	
協 賛 金	0	10,000		0	
広 告 掲 載 費	400,000	400,000	100.0%	400,000	
資 産 運 用 収 入	0	465		0	利息等
雑 収 入	0	0		0	
合 計	15,230,000	15,421,184	101.3%	15,240,000	

支出の部

科 目	2025 年度予算額	2025 年度決算額	予算進捗率	2026 年度予算額	摘 要
事 業 費 合 計 (A)	11,200,000	10,395,282	92.8%	10,750,000	
(1) 総 会 費	3,000,000	3,196,996	106.6%	3,300,000	総会、親睦会費
(2) 会 報 費	2,400,000	2,277,770	94.9%	2,100,000	106号140万円、107号70万円
(3) 事業通信費	3,400,000	2,968,126	87.3%	3,000,000	106号200万円、107号50万円
(4) OB会補助費	500,000	540,000	108.0%	500,000	クラス会補助金
(5) 学校補助費	750,000	744,950	99.3%	750,000	
(内訳) 卒業生記念品費	350,000	329,950	94.3%	350,000	
図 書 費	200,000	200,000	100.0%	200,000	
学友会補助	200,000	215,000	107.5%	200,000	
(6) ホームページ費	400,000	260,260	65.1%	400,000	LINE費用およびHPメンテナンス費用
(7) 獨協祭参加費	250,000	93,640	37.5%	150,000	
(8) その他事業費	200,000	56,463	28.2%	200,000	
(9) 奨学金基金への寄付金	0	0		0	
(10) 慶 弔 費	150,000	80,000	53.3%	150,000	
(11) 渉 外 費	150,000	177,077	118.1%	200,000	
事 務 費 合 計 (B)	3,754,000	3,236,936	86.2%	4,274,000	
(1) 事務運営費	1,350,000	859,603	63.7%	900,000	事務通信費、振込手数料
(2) 管 理 費	1,100,000	1,188,750	108.1%	1,900,000	人件費、家賃
(3) 会 議 費	400,000	323,906	81.0%	400,000	アルカディア市ヶ谷幹事会2回開催分
(4) 旅費交通費	300,000	303,008	101.0%	300,000	
(5) 名簿管理費	374,000	374,000	100.0%	374,000	
(6) 雑 費	230,000	187,669	81.6%	400,000	名簿管理システムの調査費等
予 備 費 (C)	0	0		0	
小 計 (A+B+C)	14,954,000	13,632,218	91.2%	15,024,000	
当 期 収 支 差 額	276,000	1,788,966	648.2%	216,000	
合 計	15,230,000	15,421,184	101.3%	15,240,000	

獨協同窓会 公式 LINE アカウント

獨協同窓会の公式 LINE アカウントでは、各種行事や同窓会、同窓生に関する情報を適宜発信しています。QR コードから「友だち登録」をお願いします。

<https://lin.ee/96pBL8N>





2026 年度 大学入試合格者数

進路指導部長 森 分 章 太

目白台の緑が日ごとに輝きを増し、柔らかな春光が校舎を包む季節となりました。去る3月10日、189名の高校3年生が希望を胸に学び舎を後にいたしました。その1週間後には中学3年生も義務教育を終え、一つの大きな節目を越えて瑞々しい決意と共に高校生活への一步を踏み出しました。

卒業式という場は、教員にとって最も身が引き締まる瞬間です。壇上で卒業証書を手にする一人ひとりの顔を見つめ、彼らと共に過ごした喜怒哀楽の月日を思い返すと、胸に熱いものが込み上げます。とりわけ卒業生代表が述べる答辞には、彼らが本校の自由な校風の中で育んできた「自律」の精神と、支えてくれた方々

への深い敬意が溢れており、我々教職員もまた、教育という仕事の尊さを改めて教えられる思いがいたします。

さて、大学入試に目を向けますと、今年度は大学入学共通テストの難化ということもあり、入試はとてつもないものとなりました。しかし、蓋を開けてみれば本校の生徒たちは怯むことなく、自らの志を貫き、高い目標へと果敢に挑戦する姿勢を崩しませんでした。最後まで粘り強く戦い抜いた彼らの勇姿と、それを支えたご家族の皆様の熱意に敬意を表しつつ、今後とも母校の発展と後輩たちの挑戦を温かく見守っていただければ幸いです。

2026 年度大学別合格者数 (2026 年 4 月 16 日現在)

進路指導部

国公立大学	合計	現役	既卒
北海道大	1		1
室蘭工大	1	1	
富山大	1	1	
群馬大	2	2	
東京外国語大	1	1	
東京都立大	1	1	
滋賀大	1	1	
広島大	1		1
福岡教育大	1	1	
防衛大学校	2	1	1
合計	12	9	3

難関私大	合計	現役	既卒
早稲田大	10	7	3
慶応義塾大	5	3	2
上智大	6	5	1
東京理科大	14	8	6
合計	35	23	12

GMARCH	合計	現役	既卒
学習院大	10	7	3
明治大	28	18	10
青山学院大	12	5	7
立教大	14	9	5
中央大	15	11	4
法政大	13	7	6
合計	92	57	35

私立大学	合計	現役	既卒
獨協大	26	26	
成蹊大	6	5	1
成城大	4	1	3
明治学院大	6	4	2
武蔵大	1		1
日本大	16	12	4
東洋大	21	13	8
駒澤大	4	4	
専修大	5	3	2
芝浦工業大	19	13	6
東京農業大	10	4	6
東京電機大	11	7	4
東京都市大	12	6	6
合計	141	98	43

医学部	合計	現役	既卒
獨協医科大	8	7	1
金沢医科大	1		1
北里大	3	3	
昭和医科大	1		1
帝京大	2		2
近畿大	1		1
日本大	1		1
合計	17	10	7

推薦入試等	合計	現役	現役進学
獨協医科大推薦	7	7	7
獨協大推薦	26	26	18
指定校推薦	28	28	28
公募推薦	2	2	2
総合型選抜	16	16	10
合計	79	79	65

歯学部	合計	現役	既卒
神奈川歯科大	2		2
昭和医大	1	1	
日本歯科大	3	1	2
明海大	1		1
合計	7	2	5

薬学部	合計	現役	既卒
東京理科大	1	1	
東邦大	1	1	
帝京大	2	2	
帝京平成大	1	1	
昭和薬科大	2	2	
日本大	1	1	
日本薬科大	1	1	
星薬科大	2	2	
明治薬科大	7	7	
国際医療福祉大	1	1	
北里大	1	1	
合計	20	20	

<海外大学合格>

University of Central Florida

Minnesota State University, Mankato

「無駄を生きる」 ～舞台俳優の仕事と、遠回りがもたらす財産～

演者：友部 康志 氏 平成5年卒業



令和8年2月14日 (土)、OB講演会が開催されました

今回は、舞台俳優の友部 康志さんにご講演頂きました。

2026年2月14日(土)、OB講演会が開催され、舞台を中心に活躍される俳優・友部康志(ともべやすし)氏(平成5年卒)にご登壇いただきました。同講演会は2013年に始まり、コロナ禍で中止となった年を除き継続して実施され、本年度で12回目を迎えます。

講演のテーマは「無駄を生きる」。友部氏は、下町育ちのご自身の歩みを振り返りつつ、柔道部での経験から演劇との出会いへ至った経緯、そして柳本先生の導きのもと、多くの舞台を観て「面白い/合わない」を自分の言葉で確かめる時間が、後の表現の礎になったことを語られました。高校時代には演劇部として地区大会・都大会・全国大会に挑戦し、勝ち負けの悔しさや仲間の言葉が、今なお仕事の原動力になっているというお話は、会場の生徒たちの胸に強く残ったように感じます。

卒業後は東京学芸大学へ進学。20代で北区つかこうへい劇団に入団し、劇作家・演出家で直木賞作家でもある、つかこうへい氏の下で、運転手としての下積みを含む厳しい日々を経験されたとのことでした。連日の稽古や長時間労働など、現代の価値観では想

<ご 略 歴>

平成5年 (1993年) 獨協高校卒業
平成11年 (1999年) 東京学芸大学卒業
平成9年 (1997年) 北区つかこうへい劇団入所
劇作家つかこうへいに師事
以来、舞台を主に活動

像しがたい環境に身を置きながらも、「無駄に見える時間こそが、あとで自分の財産になる」と、静かな実感をもって語られた点が印象的でした。

また、俳優という仕事は“華やかさ”の裏側で、細部に神経を注ぐ連続であることを具体的なエピソードで紹介されました。台本のたった一行の指示のために、メイクで胸毛を一本一本描く作業に何時間も費やした経験や、役作りのために実際の世界を観察し、調べ、自分の引き出しに蓄える過程は、まさに「神は細部に宿る」を体現するものです。合理性やタイムパフォーマンスが重視されがちな時代にあって、遠回りや失敗を“切り捨てない”生き方が、表現のみならず人生全体を豊かにし得る、というメッセージは、進路を考える生徒たちにとって大きな示唆となりま

した。

質疑応答では、緊張への対処法、表現で大切にしている価値観、柔道部での経験が演技にどう生かされているか、舞台俳優を志す上での心構え、裏方の仕事への感謝など、多岐にわたる質問が寄せられました。友部氏は一貫して、飾らず相手の目を見て言葉を届けること、そして熱意を持って続けることの大切さを、ユーモアを交えながら丁寧にお答えくださいました。

最後に、生徒会長からは、合理性だけでは測れない“情熱”の輝きに触れた謝辞が述べられ、会場は温かな拍手に包まれて閉会となりました。友部氏の率直な言葉と実体験に裏打ちされた講演は、生徒たちが自身の選択を考える上での確かな手がかりとなり、また同窓の先輩の歩みを身近に感じる、貴重な機会となりました。



獨協ラグビー倶楽部 第4回総会報告

塩崎 剛 (平成13年卒業)

2026年2月14日に母校獨協中学・高等学校内小講堂にて獨協ラグビー倶楽部第4回総会を開催いたしました。

当日ご出席頂きました倶楽部員の皆さまに全議案を承認いただきましたこと、まずは厚く御礼申し上げます。

総会では、この一年の活動実績が報告されました。昨年度は、3月に日本歯科大学ラグビー部との合同練習の実施を皮切りに、6月には選手の安全を守るための「安全対策講習会」を本校会議室にて開催。そして8月には、現役生の菅平合宿へ帯同し、現役部員たちの活躍を間近で支えてまいりました。9月の獨協文化祭ではOB会として現役へ差し入れを行い、激励の意を伝えました。

総会の場では、現顧問の先生から現役生の戦績の報告とOB会より卒業生への「倶楽部公式ネクタイ」の目録贈呈も行われ、現役生とOBとが伝統の継承を肌で感じる瞬間となりました。中でも、昨夏開催された「KOBELCO CUP 2025(第12回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会)」において、本校からU18関東代表として3名の選手が選出されたとの報告もあり、現役生の目覚ましい活躍報告を受け、出席したOB一同、自分のことのように胸を熱くし、誇らしい気持ちになりました。

今回の総会における最大のトピックは、**創部70周年に向けた委員会の正式発足**です。創部60周年を記念して本倶楽部が発足してから、初めて大きな節目の年に向けたカウントダウンが始まりました。来る2028年2月の開催を目指して、70周年という大きな節目を一緒に盛り上げてくれる仲間集めをしております。今この文章を読んでいる「あなた」の力が必要です。現役時代の疲れる練習も激しいプレーも必要なく「仲間として集まること」を強く望みます。この会報をきっかけに同期に声をかけてみる。そんな小さな積み重ねが、70周年を彩る大きな力になります。



最後に事務局からのお願いとして2点ございます。

公式LINE・メルマガへの登録

今後の獨協祭や記念行事の詳細、現役の試合速報を随時配信いたします。まだ登録されていない方は、右記のQRコードよりぜひご登録ください。

先輩・同期・後輩への「声掛け」のお願い

連絡が途絶えている仲間を探しております。「あの先輩にお世話になったな」「あいつ、どうしてるかな?」と思いつた方がいれば、ぜひこの会報の内容をシェアして前向きなご参加をご検討ください。

ご不明点はお気軽にお問合せください。

<獨協ラグビー倶楽部 事務局>

Email : dokkyorugbyreunion20190126@gmail.com

URL : <https://dokkyorugby.com>



獨協ラグビー部公式サイト 獨協ラグビー部公式LINE

令和7年度卓球部夏季合宿参加記

佐藤 真人 (昭和47年卒業)

私が入部したのは昭和40年に入学してすぐ、1組のドイツ語クラスの友人に誘われてです。

卒業まで続きました。

今年の夏、8月の10日からの合宿に暑さとお盆の時期の交通渋滞を心配しながら参加してきました。(昔、母がなんでもお盆の時期にやるの、何処にも行けないじゃないのと言っていたのを今でも思い出します。)

合宿地は米処としてよく見聞きする新潟県南魚沼町下幅スポーツ旅館。専用の大きな体育館があり、卓球台18台があり、朝から夜まで練習できる設備が整ったところでした。

参加部員は中1から高2までの32名。引率は顧問の山梨諒人先生(数学)と河野友輔先生(日本史)。またコーチ

で平成31年卒の塩澤優希OBと山本喜貴OBの総員36名でした。

合宿期間中の天気は曇りが続きましたが、ここ南魚沼町でも27度前後の気温で先生方が室温と換気に注意しながらの練習。私は練習を始めて1時間で蒸し暑さに負け、ベンチに座って参観者に変身し、体育館の端から速い動きの後輩たちを見ていると自分も中高生の頃はこうだったのかなと思ってしまいました。

他にも幾つか思い出したことを書きます。

一つ目は練習時の飲料水です。私が入部した頃は東京オリンピックの数年後で、まだ度胸・根性と言う言葉をよく聞いたり、練習中に水を飲むことはダメだったと記憶して



います。そんな頃でも夏合宿前の夏休み中の練習の後だけは、中学生はグラウンド下の音羽通りにあった氷屋まで重い半貫目（約2kg）を買いにいかさされ、戻ってくると用務員室の大きなアルミニウムのやかん二つに日替わりでメロンやイチゴやレモンなどのシロップ水を作り、飲み放題が楽しみでした。まだスポーツドリンクはなかったのです。

二つ目は、合宿地までの交通です。今は獨協の正門から貸し切りバスですが、私の頃は上野駅から信越本線に乗り、小諸で小海線に乗り換えて合宿地の小海町橋本旅館に向かって行きました。上野駅からは当時でも珍しかった蒸気機関車に乗ったことも数回あり、碓氷峠のところでは、トンネルに入る度に煙の塵が入らないように窓を閉めたり、網戸を下げたり、臭いを気にしたりで騒いだこともありました。小海線では、クーラーはなく、車両の窓全開で風に当たりながら乗っていました。暑くても、風がさらっとしていたなど覚えています。

三つ目は、練習環境の違いです。今は朝練、昼練、夜練と沢山の卓球台で卓球漬けの時間を楽しめる恵まれた時間割だなと感じました。

私の頃は練習できる場所が、旅館から遠く、千曲川にかかる橋を渡り、小海

駅前を走り過ぎ、小海線の踏切を渡り、トンネルを通過して山間にある小海町立小海小学校体育館でした。獨協から荷送した4・5台の木の卓球台、台数が少なかったので球拾いばかりでした。夜は体育館が遠く暗かったので夕食後は毎晩ミーティングがあり、寝るときは大部屋に全員一緒に雑魚寝のように並んで寝てました。今は学年別の部屋、これもまた楽しそうだな！です。

また、サプライズで来られた、獨協に着任されてから退任されるまで40数年間に亘って顧問を務めてくださった前顧問の若井唯志先生にもお会いできました。初めてお会いしたのが確か昭和51年の小海合宿でしたので、まさしく、光陰矢のごとし、思わず年月を振り返り、感じるどころ大でした。

最後に、参加OBを紹介して終わります。集合写真前から2段目の右からH31卒山本喜貴OB、H31塩澤優希OB、S43森田(谷島)孝夫OB、S52藤川博正OB、S59門田義之OB、河野友輔先生、山梨諒人先生、若井唯志先生、S47佐藤、S60大澤一雄OBの皆さんが現役の練習相手に来てくれました。感謝です。

以上になります。これからも元気で自由に楽しい卓球部の活動を願うばかりです。



卓球部OB会新年会

佐藤 真人 (昭和47年卒業)

令和8年1月24日(土)目白駅近くの鳥メロ目白通り店に集まりました。前回の平成29年(2017)年6月のOB総会から途中コロナ感染症騒ぎで中断していたので8年が開いてしまいました。当日は昭和36年卒業の松下靖夫先輩他16名のOBに参加いただきました。

卒業以来50数年ぶりの再会があったり、白髪の仲間が多くなっていたりとお会い頭から驚きと興奮は増すばかり…。皆、獨協に通っていた部員の頃の先輩後輩の力関係の今だから笑える暴露話や、顧問の先生方の逸話披露や物まねが急に始まったり、各人の卓球が上手く成れるように一寸変わった練習中の工夫話などで話題は尽きずで盛り上がり、あっという間の2時間半でした。しかし皆よく飲む、感服しました。

創部昭和20年の大池茂保先輩のときからの卓球部が数十年経っても今に続いていることは、学び舎にふらっと寄っても気楽に声を掛けることができる後輩・部員がいることはOB達にとって楽しい事です。

今回はOB会名簿作成途中のため、声掛けができなかった沢山のOBには申し訳なかったです。次回は、全員にお知らせできるように活動し、後輩の応援にも力を増していきたいと思えます。皆さまのご協力を賜れますよう宜しくお願いいたします。そして部員の頃のような【やんちゃで元気な姿】で会えたら最高だね!!!



39 会傘寿の集い

宮田 雅 則 (昭和 39 年卒業)

10月4日(土)神楽坂坂に近い軽子坂インテリジェントロビー・ルコで39会傘寿の集いを開催いたしました。この1年で亡くなりました同朋を偲んで会の最初に黙祷をしました。

100歳時代80歳はあまりにも早いとはいえ健康で生活できる少数派の方々の出席に幹事一同感謝いたします。進行は田中君、締めは森君と3組の協力トリオで会はスムーズに、男子校のため華を添えるファーストクラスと共に写真撮影をして(コンパニオンの中にモデルの方がいるそうで)、皆誰だろうと気に掛かる様で、未だ未だみんな若いですね。

ドイツ語組佐藤忠一郎氏のドイツ語で人生に乾杯(ビールで)、宮田流の乾杯は日本酒白鷹で乾杯(会場の升本総本店様の伊勢神宮献上酒を提供いただき)、今までにない2種類の乾杯ではじまりました。ビールはコップ、日本酒は1合升、本来升は木ですがプラスチック製朱色現代版、小物や器に利用していただくように各自持ち帰ってもらいました。

10月4日語呂合わせにちなんで新宿内藤唐辛子の苗は2名、他に8名が乾燥した昨年の唐辛子をゲット、締めは3本締め次回米寿を目標に散会した。



獨新会 (ドイツ語クラス)

櫻田 可 人 (昭和 40 年卒業)

昨年10月31日(金)・17時半、例年の如く由緒ある「赤坂クラブ」にて、大変お世話になりました小平晋士先生をお招きし、獨新会(昭和40年ドイツ語クラス卒業)を開催致しました。参加者は例年に比べると若干少ない13名でした。残念な事ですが、毎年当たり前のように接する事になるのが仲間の訃報です。昨年は、1月に平岡具隆君、7月に佐野俊哉君、10月に木内博之君と大原拓也君の4名が、遠い所へ帰らぬ旅立ちをしました。歳を重ねるに従い、同朋の数が少なくなって行く事は寂しいものです。彼らの冥福を祈り、黙祷を捧げました。その後、欠席者の報告を交え、いつものように今の自分と家族や健康の話などと共に、在学当時の思い出に花が咲き、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。我々は本年傘寿を迎える歳となります。盛会の中、「来年もまた皆元気で会おうじゃないか」と誓い合いながら、散会致しました。

(記:桜人)



41 年卒高校入学ドイツ語クラスのクラス会

伊 藤 新 (昭和 41 年卒業)

41年卒高校入学ドイツ語クラスのクラス会を、目白駅前トラッド目白1階にあるイタリアンレストラン「Pizzeria37」で、10月3日(金)17時-19時に行いました。

今回は案内が遅くなったこと、流行り出したコロナの影響、またコロナ禍を経て連絡が取りにくくなったメンバーもいたことから、出席者は6名に留まりました。開始早々から同級生の動向情報の共有で盛り上がりあっという間の2時間でした。

尚、我々の主管である糸井先生は、だいぶお身足が弱っておられるようで外出は控えられている様子でしたが、晩酌は毎日やってるよとお元気そうでした。

次回は2年後辺りに80才の集いをやろうと一致して散会しました。写真は左から松永、素木、坂田、佐野、西山、伊藤新です。

※このお店はアタリでした。料理もビールもワインも美味しく、そしてリーズナブルでした。



獨協 1 月会 2025 年 5 月開催 喜寿を祝う会

中村昭美 (昭和 41 年卒業)

2025 年 1 月に江藤君が幹事として本所吾妻橋駅前で開催予定でしたが万年幹事の中村がインフルエンザに感染し中止することとなりました。

その他多数の参加者から 5 月のランチ会を開催してほしいとの連絡が入り開催の運びとなりました。

5 月 16 日 (金) に上野駅前の中華料理過門香にて 13 名が揃い開催しました。

参加者：江東雄一君、小杉喬志君、島田博君、下山潔君、堀江重之君、森田芳和君、福島広樹君、下村博一君、北岡高明君、菅谷健一君、渡辺隆之君、平岡徳朗君、と中村昭美が各自近況を発表し、気候の変化についていけない年齢になったことを自覚し 77 歳まで元気に再開できる喜びを噛み締めました。

欠席者は斎藤幸一君、大関久義君、篠田伸正君、東浦章君、松本巳俊君、横山善文君、綾部昌明君、7 名は元気にはしていますが、仕事の都合や体調不良で出られないとのことでした。

盛会はあっという間に時間がきて、来年も昼食会がよいとのことで散会しました。

幹事の独り言：80 歳までは頑張りたいと思います。



元気再会コンサート

佐藤由光 (昭和 46 年卒業)

去る、令和 7 年 11 月 16 日 (日) にライブハウス『渋谷 nob』にて総勢 34 名の参加のもと開催いたしました。

何故、会場がライブハウスなのか？それは 3 年前に昭和 46 年卒同期の大半が古希を迎えるのを機に開催された『同期会』の際、同期の物故者が結構の人数いるとの話があり「皆な元気な内にまた集まりたいね」「同期の中でバンドをやっているメンバーがいるそうだから次回はバンド演奏を含めた会にしたいね」等の一部音楽ファンのご要望(?)により我々中学からの同期バンド『D-Boys』の演奏を聴きながらの懇親会としてライブハウスでの開催と相成りました。只、今回の会場のキャパが M A X 35 名程度の為、音楽好きの都内近郊在住の一部の方々にはお声掛け出来ず「こんな会だったら参加したかったのに」とお思いの方々には次回はお声掛け出来るようにしますので今回はご容赦願います。

※『D-Boys』メンバー：VOCAL/ 西川正行 (3 組)、E.G./ 佐藤由光 (3 組)、E.B./ 鮫島明 (1 組)、K.B./ 馬場博己 (1 組)、Drums/ 茂木郁治 (7 組) 高校卒業時の組

当日は久しぶりの再会に涙した者、50 数年ぶりに再会し「君、誰だっけ？」と高校時代からは余りにも変わり果てたお互いの変貌(?)に名前を確認し合っている者やら、和やかな雰囲気が始まりました。

冒頭に同期の『獨協同窓会会長』竹内文生君からの挨拶で開催に至った経緯、獨協学園全体の現況報告等があり同窓会支援への協力依頼もありました。そして伊藤達雄君の進行役で『D-Boys』の演奏 (一部が洋楽曲、二部が懐かしの G S サウンド) が始まり和気藹々の雰囲気の中、お酒も入ってノリノリの人ありで楽しいひと時を過ごしました。因みに演奏に対してはそれなりの評価(?)を戴き感謝しています (拝)

次回は「皆な生きている内に毎年やろうよ (笑)」とのリクエストもあり、最後に懐かしの獨協校歌を全員で合唱して高校時代に戻った心地良い雰囲気の中で解散となりました。



3 年 5 組飯島先生クラス会

長江洋介 (昭和 47 年卒業)

昭和 47 年卒の古希の会から 2 年が経ち、前回参加できなかった仲間にも声をかけ、令和 8 年 1 月 11 日、ホテルメトロポリタン池袋「桂林」にてクラス会を開催した。

参加者は 11 名で、担任であった飯島義信先生もお元気な姿で出席された。卒業以降初めて再会する同級生もおり、開会前には顔と名前が一致せず、お互いに戸惑う場面も見られた。会の冒頭では、既に亡くなられた同級生 (深瀬和茂君、池田聖君、加藤健二君、白石剛君、立木充君、森田良君) に黙祷を捧げ、会が始まった。

自己紹介では、現在も現役で活躍している者、長年第一線で活躍した後にゆったりとした生活を送っている者、癌を患いながらも復帰した者など、それぞれ異なる環境の中で元気に生活している様子を知り、皆が安堵した。

飯島先生は88歳と伺ったが、年齢を感じさせないはつらつとしたお姿に一同驚かされた。また、上田善彦君からは、獨協中高の校長としての海外交流を含む数々の実績について話があり、無事の退任を皆で労った。

会では「独協通信」を回覧し、同窓会への登録確認および獨協中高の教育活動支援のための寄付金趣意書を配布した。昭和45～47年頃は、多くの同級生が獨協大学に進学し、一部が他大学へ進学する時代であったことなど、当時を懐かしむ話題も尽きなかった。

時の流れの速さを改めて感じ、できるだけ多く顔を合わせる機会を持とうということで、クラス会は今後毎年開催することとなった。来年は、今年参加した同級生が欠けることなく、さらに新たな同級生と再会できることを楽しみにしている。

今回は令和9年1月10日(日)の予定である。同級生各位には、ぜひ予定を空けておいていただきたい。



昭和47年卒2組ドイツ語クラス

遠藤 宏一 (昭和47年卒業)

久しぶりに集まった昭和47年卒2組ドイツ語クラスの同期生10名と、笑顔あふれる時間を過ごすことができました。

私たち2組は新独クラス、つまり高校から入学し、第一外国語にドイツ語を選択した生徒の集まりで、3年間同じメンバーでみっちりドイツ語を勉強しました。主管は横山理吉先生で、熱い心を持った若きドイツ語教師でした。

今回は遠藤くんの音頭で新宿にあるドイツ料理店ミュンヘンに集まり、美味しいビールを飲みながら、当時の教室での思い出や近況報告など話が尽きず、あっという間のひとときでした。懐かしさと笑いに包まれた、実に楽しい会となりました。

年を重ねても、集まればすぐに学生時代に戻れるのは不思議ですね。

残念ながら72歳になると連絡の取れない者や、物故者も増えてきましたが、また元気な顔で再会できることを楽しみにして散会となりました。



独楽の会 (獨協学園で学んだ医師の集い) 開催報告

小澤 尚 (昭和48年卒業)

令和8年3月7日土曜日、午後6時より「独楽の会」なる集まりが立川のイタリアンレストラン、トレモンテで行われました。

そもそも「独楽の会」とは獨協医大を卒業した現北多摩医師会理事で元昭島医師会会長の腰塚誠二先生が、獨協医大卒業で地区医師会会長経験者が集まる会として企画されたものです。その北多摩地医師会に小平医師会代表として私(獨協高校昭和48年卒業、東海大学医学部昭和55年卒業)が参加し腰塚先生と出会い、お互い意気投合してしまい獨協医大に限らず獨協学園で学んだ医師の会にしようということになり昨年試験的に実施し13名が集まりました。皆が口を揃えてとても楽しく愉快的な会であったということで今年も開催し今回は23名が集まりました。昨年同様幹事は腰塚先生と私(小澤)が務め、松村明先生(昭和48年獨協高校卒、元筑波大学医学部附属病院院長)の挨拶とドイツ語の乾杯の掛け声「Zum wohl!」で会が開始、続いて獨協学園理事長、全日本病院協会名誉会長である猪口雄二先生に獨協学園の現状をお話いただきました。その後は各々自己紹介し、それが済むとテーブルを移動して活発な交流がありました。最後は元獨協医大副学長の平田幸一先生が閉会の辞を述べられ約3時間経過した午後9時に来年の再会を約束して独楽の会は閉会となりました。



この会では「ボクは新独」「オレは旧独」など獨協生でないと分からないkey wordも飛び交い、獨協医大の先生達も卒業後初めて会う再会を喜びあうと同時に、同じ獨協学園で学んだ経歴のある他大学出身の医師との新鮮な出会いを楽しんでいました。

医師の世界には名門大学医学部卒業生による〇〇会なる組織が幅を利かせているのは周知の事実ですが、それらは郷愁に浸り親睦を深めるといよりもソントク勘定で集い自分の立場を有利にする集団といったイヤな感じ(失礼!)を受

けるのは個人的な偏見でしょうか？しかしこの「独楽の会」にはそのような雰囲気は微塵もありません。私自身が働いている身の回りの医師も毎年東大に多数の合格者を輩出する名門進学校出身者が多いですが、彼らの間には独特の緊張関係があり側から見て「しんどいな～」と思うことが多々あります。一方この「独楽の会」の記念写真をご覧になれば分かるように皆がとてもリラックスした穏やかな表情であるのが分かり獨協学園の校風を端的に表しているのではないのでしょうか。尚以前から活発に活動している獨協ドクターズクラブは男子校の伝統を守っている目白台の獨協中学・高校の卒業生

で構成されるボーイズクラブですが「独楽の会」は写真で見えすぐお分かりのように獨協医大を卒業した女性医師も参加しているのが大きな違いで、ご夫婦での参加者もいることがこの会に独特の和やかさを加味しています。

尚当日参加した獨協医大以外の医師の出身校はそれぞれ筑波大学、東京医大、日本大学医学部、聖マリアンナ医大、東海大学医学部、慈恵医大でした。

来年も時期は未定ですが立川で開催する予定ですので参加希望者は小生までご連絡ください。

(小澤尚のメールアドレス takashiozwa555@gmail.com)

獨協 48 会

48 会事務局 佐藤 彰 (昭和 48 年卒業)

令和 7 年 10 月 18 日、昭和 48 年卒業同級生の懇親会「48 会」が、東京浜松町大門のレストラン、ラ・ブーシェリー・エ・ヴァンでおこなわれました。

昭和 48 年度の卒業生は 287 名。今年で 51 回目を迎える「48 会」に、40 名の元気な仲間が参加してくれました。古希を過ぎても再会すれば、たちまち「やんちゃ坊主」に早変わり。懇親会では参加者全員が近況を報告し、欠席者からも多数の懐かしいメールが届きました。亡くなった友に哀悼と献杯を捧げ、目白台の懐かしい思い出が蘇る秋の一夜（ひとよ）。

友達と光と空気が残っていれば、まだまだ人生気を落とすことはありません。ご同輩、次回の「48 会」は、10 月 24 日（土）開催予定です。

【昭和 48 卒／幹事一同】



S49 卒有志 山田直巳先生を囲む会

滝沢 弘明 (昭和 49 年卒業)

令和 8 年 2 月 7 日から 1 泊、ウィスタリアンライフクラブ熱海に部屋をとり、高校時代に山田先生が主管をされたクラス、また現国を教えて頂いた生徒達 10 名が集い、先生をお招きしました。

山田先生は昨年喜寿を迎えました。我々は古希を迎えました。山田先生は国学院大学を卒業した 1970 年、我々が中 3 の時に獨協に就任されました。我々と歳の差 7 年であった事も強い親しみを抱いた要因の一つです。

夕食後、先生を囲んで当時の心に残るエピソードについて先生の立場からのお考えや印象に耳を傾けたり、古希を迎え現在の境遇から先生に相談したり、心地よいお酒を楽しみました。

翌日は熱海にも雪が積もる寒さでしたが梅園を見物した後、線路が白く染まった湘南ライナーで先生をお送りしました。開催にあたり、補助金を頂戴した同窓会に御礼申し上げます。



昭和 49 年卒 合田憲先生門下生クラス会

鈴木 茂行 (昭和 49 年卒業)

1974 年卒の合田憲先生門下生のクラス会を 3 月 14 日（土）に日本橋のかずさやホテルで開催しました。合田先生の奥様や息子様、お嬢様にもご参加いただき、現役続行中の方、完全リタイアメントした方とのいまを生きていることを楽しく刺激的に語り合いました。2 年前の OB 講演会で登壇した篠崎君が獨協学園から卒業アルバムをお借りしてきたので、当時の懐かしい写真を見るに時の流れのはやさを実感しました。最後は終電後の 3 次会まで繰り広げました。合田先生の遺伝子を受け継ぐ、信頼のおける盟友を持つことの尊さに感謝です。



昭和 52 年卒業高校 3 年 4 組クラス会

小林 茂 樹 (昭和 52 年卒業)

2025 年 11 月 29 日 (土) 17 時半、目白「匂香亭」にて 1974 年入学組 21 名が集まりました (ゲストも 5 名参加してくれました)。50 年ぶりの目白での再会も、顔を合わせた瞬間に“あの頃”の空気が戻ってくるのは不思議なものです。

「全然変わらないな!」というお決まりの挨拶に、心の中で (いや、だいぶ変わってるだろ…) とツッコミを入れるあたり、さすが長年の仲です。当時の我々といえば、学生服のスラックスを KENT のチャコールグレーに替えるのが精一杯のファッション革命。靴は BASS やリーガルで充分お洒落。クロケット & ジョーンズやジョンロブといった名前は、まだ霧の向こうの存在でした。週末はたまに DISCO 活動も。六本木の「メビウス」や赤坂の「ビプロス」でかなり背伸びして踊るものの、六本木キャステルは“高嶺の花”で入店すら叶わず。目白の男子校ゆえ、川村学園や本女 (日本女子大付属) との文化祭交流が青春のビッグイベント。黒電話のダイヤルを回す指が震え、親御さんが出た瞬間に受話器を置く——そんな時代でした。笑

地元は田中角栄全盛の頃。首相辞任からロッキード事件での逮捕など、政治は激動していましたが、我々はなぜか根拠のない自信に満ちていました。スマホも SNS もなかったけれど、仲間と笑い語り合うだけで毎日が十分に楽しかったものです。匂香亭の美味とワインを味わいながら、話題は尽きることなく 50 年前の武勇伝から健康診断の数値まで縦横無尽。気づけばあつという間の 2 時間半が過ぎていました。「また来年も、皆で集まろう!」と誓い合い、店を出ると、目白の街の灯が少し滲んで見えたのは、ワインのせいかな、それとも懐かしさのせいかな——。



河野先生退職お祝いの会

下斗米 秀 之 (平成 15 年卒業)

令和 7 年 11 月 26 日、有楽町の「天ぷらかんだ」にて長年獨協中高に勤められた河野先生の退職を祝うため、卒業生有志によるお祝いの会が開かれました (河野先生と平成 15 年卒業生 8 名の計 9 名)。

学生時代の思い出話に花が咲き、時間を忘れるほどの盛り上がり。宴の終盤には、英語教員だった先生による最後のミニレッスンも! まるで教室に戻ったかのような、ユーモアと洞察に満ちた語り口で、語源から英単語を覚える方法など、四半世紀前の記憶が蘇りました。

グラスを片手に、先生らしい“最後の授業”となりました。長年にわたるご指導に心より感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



平成 10 年度入学 獨協中学高等学校同窓会

呉 彰 眞 (平成 16 年卒業)

令和 8 年 3 月 21 日 (土)、平成 10 年度入学組の同窓会を開催いたしました。獨協高校卒業からおおよそ 22 年を経て、今回が初めての同窓会となりました。

当初は急遽決まったこともあり、8 ~ 10 名程度の小規模な会を予定しておりましたが、SNS の力もあり、最終的には 52 名もの旧友が参加しました。

20 年以上の時を経て外見には変化が見られる一方で、内面は変わらない「獨協生」であることを、参加者一同あらためて実感する機会となりました。

幹事一同としましては、今回の再会をきっかけに交流がさらに深まることを願っております。次回開催は未定ではございますが、今回ご参加いただけなかった方々にも、ぜひ次の機会にお会いできれば幸いです。

最後に、ご多忙の中、同窓会にご出席いただいた長谷隆一先生、また参加をご検討くださった坂東広明先生、松本麻里子先生に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。全体写真が暗くてすみません… こういうところが私の変わらない部分です笑 ご容赦ください笑



令和6年度卒業二十歳を祝う会 仲宗根 大河 (令和7年卒業)

今回の同窓会では、150人程の多くの人数が参加をしました。

卒業以来に、同級生や先生方を会えて楽しい時間を過ごすことができました。

このような楽しい会ができたのは、先生方や保護者の方々の助けがあってこそだと改めて感じました。

今後も皆が参加できるような会をやっていければと思います。



さいたま目白会

鈴木 義信 (昭和50年卒業)

2025年10月30日、埼玉県内の獨協高校出身のドクターの会が開催されました。コロナ禍で中断されていましたが、代表世話人の寺師義典先生(S50卒)のお声かけで昨年からの活動を再開しました。今回は獨協医科大学病院脳神経内科主任教授であります鈴木圭輔先生(H7卒)に『認知症の診断と治療』について最新の話題のご講演いただきました。鈴木圭輔先生は獨協医科大学病院で生まれ、獨協中、高校卒業後、獨協医科大学に入学、更に同大学院を卒業されています。生粋の獨協人です。認知症については新しい治療薬が出たこともあり、皆さん関心を持って聴講されており、沢山の質問がありました。

講演後は懇親会が行われました。コロナの影響で懇親会が行われませんでしたので、ひさしぶりに同窓生と親睦と情報交換ができました。最後は世話人です。田中正顕先生(S53卒)に次回の開催を目指して締めめの挨拶をいただきました。

今後も同窓生のご参加をお待ちしております。

参加者は、菊池崇知、吉津 徹 (S50卒)、鈴木忠臣 (S51卒)、志村 浩 (S58卒)、丸山泰幸 (S59卒)、高橋公一 (S63卒)、松本充也 (H11卒)、山崎 弦 (H4卒)、鈴木将臣 (H20卒) (敬称略)



第10回歯科医師獨協会開催

橋口 英生 (昭和53年卒業)

令和7年11月30日(日)2年ぶりに「歯科医師獨協会」が開催されました。今回は、今までとは異なった曜日や会場、開催方法となり、会場は飯田橋の軽子坂下神楽坂河岸にある「レストランリノ」となりました。このレストランは、1977年に獨協同窓生がオープンした40年余の歴史あるお店です。お店の看板はフクロウをモチーフにしていて、店の入口脇のサンルームには古い英国製のスポーツカーが展示されています。

当日は、30～80代の幅広い年代から

50余名の獨協高校卒歯科医師が集い、14時開会。世話人会代表の三浦健司先生(S51年卒)による司会進行で、滝川国勝会長(S32年卒)挨拶後、学術講演会講師の國枝正人先生(S63年卒)による講演となりました。演題：「身体と心の健康増進、知的好奇心を伸ばす 旅のスズメ」と銘打たれた講演は、先生自身が経験した区議会議員時代のお話に始まり、豊富な海外渡航経験で得られた貴重な体験と、移動に際しての航空券取得方法に関する裏技や、渡航先での硬軟併せ持った体験内容が大変興味深く、今までの歯科学術一本の講演会とは少々異なり、とても楽しい講演内容だったと感じました。講演終了後、ご来賓の獨協中学・高等学校校長・坂東広明先生、獨協同窓会会長・竹内文生様(S46年卒)よりお言葉を賜りました。

懇親会は元世話人代表・池松武直先生(S42年卒)による司会進行で同じく元世話人代表・森田芳和先生(S41卒)のご挨拶、真砂功杉並区歯科医師会会長(S46年卒)による乾杯のご発声で、和やかなにスタートしました。懇談の途中、協賛企業紹介をさせていただき、山本啓太郎先生(S58年卒)による中締め、校歌斉唱、参加者全員による記念写真撮影と会は進行し、最後に、世話人・岡和彦先生による閉会の辞をもって閉会となりました。今回は、会場がとてもゆったりと居心地良く感じられ、和やかに充実した会となりました。



● 感謝 Danke schön!

＜黒沼昭夫（昭和20年(5年制)卒）＞



明けましておめでとう
ございます。お陰様で私
は98歳の新年をつつが
なく迎えております。

獨協同窓会の皆様には
日頃から大変よくして頂
いており、感謝の念に堪
えません。Danke schön!
昭和2年生まれの方は、
今年の6月で99歳、同窓
会の皆様から「先輩、先
輩」と大切にさせて頂い
ております。感謝。

確かに間もなく100歳の声を聴くとすると、少し
ばかり人生の先輩であると胸を張っていいのかな、
などとも思うこの頃です。とは言っても、年を取
ると不自由なことも増えていきます。そこで数年前
から、ここ老人ホームというところで生活を送るよ
うになりましたので、近況をお話致します。

老人ホームでの生活というのは皆様が想像するよ
うに退屈なものです。でもまあ、どこにいても退屈
は付き物。退屈退屈と言っているでも始まらないの
で、「さて、1つ、退屈しのぎでも始めるか」と、な
るわけです。そうだ、今日も退屈しのぎだ。忙しく
なるぞ。何の気兼ねもいらぬぞ。今日はコンサ
ートの日か？推しの歌手がでるな、よし、それならひ
とつ鑑賞するとしよう。おっと、今日は体操の日
だったな。この頃は車椅子の運転も堂に入ったもの
だ。しっかり自分で運転してエレベーターで出かけ
よう。おっと、毎月の理髪も忘れちゃならない。き
れいさっぱりするぞ。椿が咲いたか、冬だな。窓か
ら眺めるとしよう。

そんなこんなして部屋に戻れば、同窓会の沖山様
や中村様から頂いたカレンダーが待っている。S L
の写真を眺めたり、国宝の写真を鑑賞したりして、
素晴らしい写真だなあと楽しむ。私の毎日は退屈し
のぎで結構忙しいのです。100歳に近づいた私には
ちょうどいいように忙しいわけです。毎日そこそこ
忙しいので夜はぐっすり眠れます。目覚めがいいと
毎日が楽しいものです。

「退屈しのぎで忙しい」。冗談にも聞こえる私の
本心を、さらっと言えるのも、獨協同窓会の皆様
が、親子ほども年の差のある私を大切にしてくださ
っているからです。なかなか出来ないことです。もう
一度 Danke schön!

私は退屈しのぎで忙しい。皆様は本業でご多忙な
ことでしょう。お互い元気に今年も過ごし、楽しく
年を重ねてまいりましょう。獨協はいい学校です。
今も獨協と同窓会で繋がっていることを感謝しま
す。Danke schön Dokkyo! Ich liebe Dokkyo!

獨協学園と獨協同窓会の益々の発展を、いつも祈
り、応援しております。 令和8年元旦

●天野貞祐先生が校長に就任されて最初の卒業証書
を中学で授与されたのが昭和31年高校卒の我々で
す。米寿となりクラス会・同期会は絶えて久しくな
りました。数年前から仲間7人が時々合わないとい
ふ事、と言う事で年に3-4回会うことにしています。入
江、大島、栗原、斎藤、島田(旧姓 藤井)、丸山、
三富が会っておりますが、大島、本田がはや鬼籍に
入り、斎藤、三富は施設に入居しており寂しくなり

ました。次回会合は獨協同窓会総会6月第3土曜日を
予定して居ります。31年卒の皆様総会懇親会でお会
い致しましょう。皆様に再会できる日を楽しみに！

＜島田(旧 藤井) 秀考(昭和31年卒)＞

●中学、夏の奥日光、野尻湖、伊豆三津浜等。高校
では世界史の長谷川先生に引率、指導して頂いた上
高地横尾をベースにした常念、奥又白谷等の山行、
思い出沢山。元気です。＜栗原信介(昭和31年卒)＞

●70年前昭和31年卒の丸山進です。まだ木造の学び
舎だったと思います。まだ元気に落合から上野にあ
る会社に毎日、目白通りの獨協前を車で通り、学生
さん達を見ながら通っています。賢そうな僕達が多く、
頼もしい思いをしております。毎年獨協時代の友人と
会っていますが、年々一人減り二人減りで寂しい思い
もしておりますが獨協中学、高校時代の自分が一番楽
しい時代だった様に思う今日この頃です。

＜丸山進(昭和31年卒)＞

●健康の為に合気道をやっています。今度三段をめ
ざしています。 ＜藤原秀雄(昭和38年卒)＞

●ドッシラソミドミ、ソッソラソッソラソ…。

これは映画「戦場にかける橋」の主題歌クワイ河
マーチのイントロで、私達が獨協中学校の時に音楽
のK先生の指導の下、運動会で鼓笛隊演奏更新した
ものです。当時流行ったテレビ西部劇映画「バット
マスターソン」の主人公はステッキを持っていま
した。K先生も太い棒を持ち、間違うと容赦なく愛の鞭
が飛んできたので、Batではなく、Badと陰口を叩い
ていました。K先生には「野ばら」、「菩提樹」、
ヴェートーベンの交響曲第九「歓喜の歌」も教わり、
今でもドイツ語で譜んじて歌うことができます。

＜横山善文(昭和41年卒)＞

●卒業して60年、獨協6年間は人生の始まりです。担
任のデカ栗から数学を授かり生業となり、幾多の友
とは今でも年2回昔や今を語ります。喜多さん、平岡
さん、中村さんいつも幹事役ありがとう。

＜石田典昭(昭和41年卒)＞

●2025年8月1日 74歳誕生日に六畳一間の老人ホ
ームに入所・このホーム一人外出禁止。認知・痴呆・
健忘症の方が多い。ほとんどの方、車椅子、シモの
世話も介護士が。私は正常。歩行、呂律に多少難
あり。惚け防止の為に「資本論」に挑戦中。獨窓会
(1964年入学、1970年卒業 1組獨語クラス)は今
まで10回開催参加した。しばらく会合へは欠席。残
念。80歳?になったら一人外出できる施設へ移設
予定。それまで皆さんお会いできない。生きてい
て下さいね! お会いできるのを楽しみに生き抜きま
す。(私の遺体は某医大に献体手配済)

＜青木秀夫(昭和45年卒)＞

●49年卒業の奈良隆寛です。

昨年独協通信を見て吹奏楽部の同級生の古川哲也君
(清和短大副学長)が日本幼少児健康教育学会木更
津大会を開いて、小児科医の僕に「発達に課題をも
つ子どもたちのハッピー子育て」という特別講演を
させてくれました。高校卒業後には慈恵医大のオー
ケストラに指導に来てくれて以来45年ぶりの再会
でした。仙台から木更津まで長旅でしたが、独協通信
のおかげで楽しい出会いになりました。ありがとう
ございます。 ＜奈良隆寛(昭和49年卒)＞

●昭和51年卒4組木村先生クラスの三浦健二です。月
日のたつのは早いもので、獨協を卒業してから半世
紀がたちます。来年、古希を迎えるにあたり、有志
で来秋にお祝い会を開こうと計画しています。お誘
い合わせのうえ dokkyokoukou1976koki@gmail.com
Facebook「獨協中学・高等学校昭和51年卒業生」

私の近況 卒業 10年

までご連絡ください。 <三浦健二 (昭和51年卒)>
 ●卒業して半世紀50年、思い起こせば色々あったけど、68年間を生きてきて全てのことに對して、素直に感謝の気持ちしか有りません。

<遠藤典昭 (昭和51年卒)>
 ●2028年に昭和51年の卒業生で「古希の会」を4組の大西純一さんと企画しています。その時に51年卒業の方は宜しく御願いたします。

<谷田貝茂雄 (昭和51年卒)>
 ●私立の男子校に務めながら、2児の父として子育てに奮闘する日々を送っております。母校で過ごした日々を思い出しながら、毎日教壇に立っています。

<柘雅実 (平成18年卒)>
 ●6年、または3年を共にした仲間と未だに会って談笑できる。友は一生というのが卒業して20年経ちしみじみ思う。幸い健康なので、久しく会っていない友人と会える機会を今後作りたい。

<田邊祥平 (平成18年卒)>
 ●昨年2人目の子供に恵まれてまして、幸せいっぱいです。今でも在学中のことを思い出して、楽しかったなと浸っています。

<明石基昭 (平成18年卒)>
 ●消防庁で救急車に乗務しています。昨春に第二子が誕生し家庭が賑やかになりました。また、最近高校サッカー部の同窓会を行い、旧友に再会できて嬉しかったです。

<岩井秀晃 (平成18年卒)>
 ●仕事柄「Saas is dead」という言葉に怯える日々ですが、一先ずは今年4月に行われる卒業10周年の同窓会を心待ちにしております。

<森迫雄介 (平成28年卒)>
 ●2025年の歯科医師国家試験に合格。福井県にて臨床研修医として研鑽を積んでおります。在学時は獨協の先輩方に支えられ今日に至ります。今後も初心を忘れず励んでまいります。

<宮城島大 (平成28年卒)>

寄付金納入者一覧 (「105号」以降)

(敬称略)

宮木 俊二 (昭和24)	5,000	新城 俊男 (昭和38)	10,000	塩瀬 治 (昭和52)	5,000
山田 修 (昭和27)	20,000	(匿名) (昭和41)	50,000	(匿名) (昭和53)	(匿額)
坂井 尊彦 (昭和30)	5,000	西垣 朝裕 (昭和42)	10,000	遠山 洋一 (昭和53)	10,000
内藤 純男 (昭和34)	10,000	村上 喜代次(順) (昭和43)	10,000	田中 良 (昭和54)	10,000
福井 晃 (昭和34)	10,000	大越 克巳 (昭和43)	10,000	中嶋 哲 (昭和54)	5,000
吉本 明康 (昭和34)	10,000	助川 卓行 (昭和43)	20,000	山口 富久 (昭和58)	10,000
塩崎 晴朗 (昭和34)	10,000	(匿名) (昭和43)	(匿額)	菅谷 敦人 (昭和58)	10,000
岩佐 峰彦 (昭和34)	20,000	小川 守一 (昭和46)	10,000	横山 泰広 (昭和59)	10,000
大沢 悠里 (昭和34)	20,000	上田 善彦 (昭和47)	10,000	山崎 博之 (昭和59)	10,000
梅木 建昭 (昭和35)	20,000	S47年卒ドイツ語横山理吉クラス代表 遠藤 宏一 (昭和47)	10,000	吉松 栄彦 (昭和59)	10,000
藤田 実彦・和彦 (昭和35)	20,000	松本 利也 (昭和47)	10,000	堀井 有尚 (昭和59)	10,000
神保 孝雄 (昭和35)	10,000	(匿名) (昭和48)	(匿額)	(匿名) (平成2)	10,000
佐藤 八郎 (昭和35)	20,000	秋元 雅之 (昭和48)	10,000	後藤 直樹 (平成3)	10,000
粕谷 昭良 (昭和36)	10,000	平田 幸一 (昭和48)	10,000	呉 彰眞 (平成16)	10,000
松木 益道 (昭和36)	5,000	(匿名) (昭和49)	50,000	近藤 圭太 (平成20)	10,000
小山 壮之 (昭和36)	50,000	木村 宗孝 (昭和50)	10,000	稲葉 由樹 (平成23)	10,000
齋藤 正興 (昭和36)	10,000	岩瀬 彰彦 (昭和52)	10,000	卓球部OB会 代表者 佐藤 眞人	20,000
益井 邦夫 (昭和37)	10,000				

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。

確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので、予めご了承ください。

物故者名簿 (『独協通信』105号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和31年	小倉 宗武	2023/9/29	昭和37年	加藤 昭	2025/11/15
昭和22年	塚田 雄三	2023/8/16	昭和31年	鈴木 康司	2002/3	昭和37年	石井 孝治	2025/12/13
昭和24年	高場 照之	2025/5/31	昭和31年	染谷 光久	2022/4/17	昭和37年	一寸木 孝義	2025/10/31
昭和29年	井上 正明	2025/8/12	昭和31年	高橋 雄一	2018/2/11	昭和38年	小林 明	2025/9/19
昭和30年	加藤 正弘	2025/2/15	昭和32年	西山 喜三雄	2022	昭和40年	木内 博之	2025/10/19
昭和30年	坂本 直城	2024/4/20	昭和34年	築 壽夫	2025/11/27	昭和40年	大原 拓也	2025/10/24
昭和30年	坂井 尊彦	2025/11	昭和34年	宮崎 安立	不明	昭和51年	右田 大三彦	2025/5/13
			昭和36年	川上 利武	2025/12/9			

お知らせ

独協通信第107号(次号)は、会費納入者と会費免除者のみの発送となります。

●昨年度より、秋号(次号)については、同窓会費納入済みの方及び免除対象の方のみに発送しています。同窓会費を未納の方(免除対象を除く)には郵送されませんので、同窓会費の納付にご協力くださいますようお願い申し上げます。

●同窓会費の納付は、口座自動引き落としをご利用いただけます。口座自動引き落としを希望される方は、QRコードまたは下記URLから申し込み用紙をご請求ください。

<https://www.dokkyo-mejiro.com/contact/>



～甲状腺を病む方々のために～

ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤公一（昭和51年卒）

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

NAGOYA

名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305
名古屋市中区大須 4-14-59
www.kojin-kai.jp/nagoya/

医療法人社団甲仁会
理事長 伊藤公一

SAPPORO

さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440
札幌市中央区大通西 15 丁目 1-10 ITOメディカルビル札幌 5F
www.kojin-kai.jp/sapporo/



昭島の杜病院

医療療養型 180床+透折ベッド37床
入院（一般内科・透折）・各種健康診断
ご相談ください
東京都昭島市宮沢町5-2-2
TEL:042-500-2611

2025年10月開院

昭島の杜病院附属 昭島透折クリニック

透折ベッド25床
快適に過ごしていただく事にこだわった
外来透折専門クリニック
東京都昭島市中神町1-4-7-70
TEL:042-519-2292

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町 1 丁目 26 番 芝信神田ビル 10 階

TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。



東京弁護士会所属
弁護士 佐々木 広行(昭和61年卒)
[平成 28 年度 東京弁護士会副会長]

M 駒込みついで眼科

東京都文京区本駒込6-24-5-4F

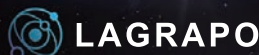
[最寄駅] 東京メトロ南北線駒込駅 1番出口南 / JR駒込駅南口 徒歩1分

TEL: 03-3943-8765

白内障日帰り手術、緑内障診断、レーザー治療、小児の斜視弱視治療
眼瞼・顔面けいれんへのボツリヌス療法、コンタクトレンズ・眼鏡処方

院長 三井 義久 (昭和63年卒)

宇宙開発のプロジェクトマネジメントで 会社が成長する仕組みを作る



株式会社ラグラポ

代表取締役社長

高野 宗之 (平成8卒)

経歴 (担当実績)

三菱重工業 H-IIAロケット設計

JAXA HTV (こうのとり) 開発

電話 : 03-6824-0833

メール : contact@lagrapo.co.jp



お問合せ、お待ちしております。

院長 清水 崇裕 [平成17年卒]

ベア AGA クリニック
BEA AGA CLINIC 薄毛・脱毛・美肌治療なら ベア AGA クリニック

◆薄毛・医療脱毛・美肌でお悩みの獨協卒業生の皆様、お気軽にお電話ください(獨協割あり)。

〒160-0022 新宿区新宿3丁目
14-22 小川ビル4階

https://bea-agaclinic.jp/
TEL:03-5925-8241
※木・祝・第2,4水・第4火 休診

林間学校の思い出の地である小諸の日新寮が、老朽化を理由に2年後を目途に閉鎖される予定との事です。これも時の流れでしょうが、思い出の地がなくなっていくのはさみしい限りです。日新寮の思い出等ございましたら寄稿お願いいたします。

同窓会の運営にご協力いただける平成・令和の卒業生を募集中

獨協通信の編集・獨協祭での展示など、同窓会の運営にご参加いただける平成・令和の卒業生を募集しています。歴史の長い獨協には多くの同窓生がいます。同窓会の運営に携わって幅広い年代の先輩と交流しませんか。興味のある同窓生のご連絡をお待ちしています。 E-mail : info@dokkyo-mejiro.com

編集後記

ついこの前 105 号を発行したと思ったら、あっという間に 106 号の発行の時期がやってきました。

前回、「こんなところに獨協人」として紹介させていただいた俳優の友部さん出演の演劇はご覧いただけましたでしょうか。OB 講演会でも在校生対象に「無駄を生きる」をテーマに講演していただきました。

6 月 20 日 (土) には同窓生の先輩後輩が集まる懇親会が椿山荘で開催されます。

是非ご参加いただき、皆で無駄な時間を過ごしましょう。

(鍋屋)

